

## 柳井市教育委員会会議 会議録

## 1 会議の開催

(1) 日 時 令和5年11月10日(金) 開会 午後1時30分  
閉会 午後3時22分

(2) 場 所 柳井市役所 3階大会議室

## 2 出席委員

|              |       |
|--------------|-------|
| 教育長          | 西元 良治 |
| 委員（教育長職務代理者） | 西原 光治 |
| 委員           | 厚坊 俊己 |
| 委員           | 横山 志磨 |
| 委員           | 瀬山真紀子 |

### 3 欠席委員

なし

#### 4 出席事務局職員

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 教育部長                  | 三浦 正明 |
| 教育部次長（図書館・サンビームやない担当） | 藤村 英明 |
| 教育総務課長                | 室田 和範 |
| 学校教育課長                | 河井 悟  |
| 生涯学習・スポーツ推進課長         | 大岡 弘明 |
| 学校給食センター所長            | 下前 真一 |
| 教育総務課長補佐（書記）          | 西本 佳孝 |

## 5 傍聴者

なし

## 6 會議日程

(1) 議案

①議案第16号 柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申方針について

②議案第17号 教育委員会事務の点検及び評価について

(2) その他

## 7 議事の大要

(1) 開会

教育長から、教育委員会会議の開会の宣言があった。

(午後 1 時 3 0 分 開会)

(2) 會議錄署名委員氏名

教育長から、会議規則第 13 条の規定に基づき、西原委員、瀬山委員の両名を指名した。

### (3) 議事内容

①議案第16号 柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申方針について

教育長は事務局に説明を求め、河井課長から、柳井市公立小・中学校教職員人事異動内申については、柳井市教育の充実発展と活性化をめざし、下記5項目の方針に留意するとともに各項目が十分達成できるよう校長の具申等を勘案し、適材適所の配置の原則に立って厳正に人事の刷新を行い、学校の活性化を図るものであるとの説明があった。

1. 全市的な視野に立って、学校間等の適正な人事交流を推進する。また、特別支援教育の充実発展を図るための適切な人事交流に努める。
2. 各学校の教職員については、専門性、現任校の勤務年数及び各学校の教職員構成等を踏まえ、適切な配置を進める。なお、同一校勤務が小・中学校において7年を超える者については、原則として異動を行う。
3. 新規採用者については、学校や地域の状況等を踏まえ、計画的な配置を行う。特に、教員については実践的指導力を高めることができるように配置を行う。
4. 広域的な視野に立ち、他市町の教育委員会との連携を図り、活性化のために適正な交流に努める。
5. 校長、教頭、事務局等の人事については、学校の課題を積極的に解決することのできる人材の配置に努める。管理職の採用・昇任に当たっては、多様な教職経験を有する者で、教育目標の実現に積極的に取り組み、活力ある学校運営を行うとともに、教職員の資質・能力の向上のために指導力を発揮することができる人材を選任する。

主な質疑応答は以下のとおり

厚坊委員：内申方針ですが、昨年度と変更はありますか。

河井課長：県の方針に変更はありません。それに伴いまして、方針の内容に変更はありません。

西原委員：この内申方針の理念に沿って、適材適所の配置をよろしくお願ひしたい。また、5番目の校長、教頭、事務局等の人事については総合的なマネジメントができるような資質の向上に努めていただきたい。

教育長：各学校の課題解決に向けて、各学校長としっかりと連携して進めていきたいと考えている。なお、例年と比べて異動の内申方針が1ヶ月早まっているので説明をお願いしたい。

河井課長：昨年度末の人事において県教委で加配が凍結されたことを踏まえ、できるだけ早く教職員の希望を把握し、全体の定数を調整する必要があるため、昨年度よりも早く各学校から情報をいただいている。

厚坊委員：教職員の年齢構成が逆ピラミッド型で大量の定年退職時代を迎えているけれども、定年後の再任用が非常に多いので新規採用者が少ないように思う。これから新規採用者は増えていくのか、県はどのような方針か。

河井課長：退職者数については、ご意見のとおり多い状況にある。ただし、柳井市の今年度末の定年退職者は少ない。新規採用者については県内全体の名簿登載者は例年どおりだが、柳井市の配置人数は全く未定である。

厚坊委員：定年延長は、いつからか。

河井課長：今年度末から段階的に5年かけて、65歳まで延長される。

西原委員：最終的には60歳で役職定年となり、65歳で退職ということか。

河井課長：おっしゃるとおり。ただし、60歳で役職定年が原則だが希望があれば新しい制度もある。

この他に質疑等はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり承認された。

## ②議案第17号 教育委員会事務の点検及び評価について

教育長は事務局に説明を求め、室田課長から、令和5年度教育委員会点検・評価報告書（令和4年度事業分）について下記のとおり説明があった。

報告書の1ページの1の趣旨では、この報告書は法律に基づき作成すべき報告書である旨を記載している。2では、昨年度の学識経験者や教育委員会会議において、頂いたご意見、ご指摘の一部を記載している。

2ページと3ページでは、点検評価の方法と結果をまとめており、「令和4年度柳井市の教育計画」に掲げる計31個の成果指標について、A、B、C、D、4つの段階をもって1次評価をしている。結果は、Aが67.8%、Bが12.9%、Cが12.9%、Dが6.4%となり、1次評価の6割以上は、「目的を達成できた」結果となっている。

4ページは施策の項目表、5ページから個別評価票となっており、以下のとおり基本方針の3つの「愛」「夢」「志」ごとに、それぞれ担当課長から説明があった。

### 【愛の1 人権教育の推進】

・指標1「人権教育の推進」は、研修会等の開催が再開し始めている。しかしながら成果指標が33回に対し、開催は27回のためB評価とした。

なお、研修会のテーマは、ヤングケアラー、外国人、LGBT、ハンセン病等で、主催者と協議の上で講師の紹介をしている。

### 【愛の2 生涯学習の推進】

・普及啓発活動の推進では、冊子及びホームページによりグループサークルを紹介している。

・公民館職員東部地区研修を柳井市が引受け、大畠公民館の池本主事が「伝統・文化の継承と私のまちの公民館」と題する事例発表を行い、益田市から講師を招き、「これからのひとづくりと地域づくりと公民館」と題する講演をした。また、その他各公民館祭りも再開した。

・生涯学習推進体制の整備充実の公民館の整備では、旧阿月小学校校舎、地区体育館の解体、新公民館の移転新築に関する実施設計を行った。今後は、R 5 年度に旧小学校内建築物の解体、R 6 年度に新公民館の建設、R 7 年度に現公民館の解体・駐車場整備を行う予定としている。

・指標 3 「公民館講座や各種教室の開催件数」は、講座・教室の回数が 7 6 講座・教室となっており、B 評価とした。

#### 【愛の 3 青少年の健全育成】

・指標 4 「少年補導員による街頭補導件数」は、成果指標 3 0 回に対し実施回数 3 0 のため、A 評価としている。月 2 回程度、各団体・学校・有志の方の協力を得て実施しており、外出している子どもの姿を見ることは少ない状況だが、立ち寄り先の職員と情報共有・情報交換を行っている。

・成人祝賀式及び二十歳の集いでは、延期となっていた最後の成人祝賀式、初開催となる二十歳の集いを開催した。

#### 【愛の 4 芸術・文化の振興】

・文化にふれあう機会の充実では、例年どおり短詩型文学祭、市美術展覧会を開催した。

・指標 5 「サンビームやない自主文化事業の開催回数」は、成果指標 3 回に対して 5 回開催しており、A 評価とした。

サンビームやないの適正な管理運営では、使用率及び入場者数ともに前年を大きく上回っている。施設の修繕・改修も必要に毎年応じて行っており、引き続き自主文化事業の充実に努めたい。

#### 【愛の 5 スポーツ・レクリエーション感動の振興】

・指標 6 「市主催大会への参加者数」は、規模縮小（人数制限など）等のコロナ感染拡大防止対策を施したうえで駅伝競走大会、ロードレース大会、健康ハイキング大会を実施したが、スポーツ少年団体力テスト、スポーツ・レクリエーションのつどいはコロナ禍により中止となったため、C 評価とした。

・施設の改修として、アデリーホシパークの時計、アクアヒルやないの設備改修及びバタフライアリーナの雨漏り対策を実施した。

#### 【愛の 6 歴史・伝統の継承と保護】

・指標 7 「歴史民俗資料館等での団体及び学校利用」は、令和 3 年度にコロナ対策として県内小学校の修学旅行先が県内に限定されたため茶臼山古墳の見学が大幅に増加したが、令和 4 年度は大幅に減少している。ただし、成果指標は達成できたため、A 評価とした。

・伝統文化・芸能の保存・継承では、神明音頭のデジタル録音による記録保存を実施、また、日本の祭り i n やまぐちにおいて神明踊りを披露した。

#### 【愛の 7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習】

- ・指標 8「地域の文化財や歴史的事象を生かした教材開発」は、成果指標が 13 校となっているが、令和 4 年度は社会科地域教材「ふるさと柳井」の改訂作業がなく、各校で教材開発ができなかったため、D 評価とした。
- ・指標 9「ゲストティーチャーによる授業」は、成果指標が 13 校となっており、全ての学校においてゲストティーチャーを招いた授業を実施することができたことから、A 評価とした。

#### 【夢の 1 学校運営協議会の機能の強化】

- ・指標 10 の「コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数」は、成果指標が年 1 回となっており、「やない教育の日」に地域連携教育の研修を実施することができたため、A 評価としている。

#### 【夢の 2 学校応援団のさらなる充実】

- ・学校応援団は 41 団体、1,044 人の登録をいただいております、年間延べ 16,668 人の活動協力を得ることができた。
- ・指標 11 の「スクール・コミュニティセンターに勤務する地域学校協働活動推進員と各学校の地域コーディネーターとの協議回数」は、成果指標 6 回に対して 6 回実施したことから、A 評価としている。

#### 【夢の 3 地域協育ネットの充実】

- ・指標 12 の「スクール・コミュニティセンターが発行するスクール・コミュニティだより（こやらい）の発行回数」は、成果指標 3 回に対して 12 回発行していることから、A 評価としている。

課題として、題材の深掘りやセンターの効果的活用について、今後も検討していきたいと考えています。

#### 【夢の 4 幼保小中高連携の強化】

- ・指標 13 の「校種間連携を推進する協議会の開催回数」は、成果指標が各協議会で年 1 回となっており、4 回の協議会「幼保小連携協議会」「小中高連携教育推進協議会」「柳井市小中高生徒指導連絡協議会」「柳井市学校保健委員会」の内、「小中高連携教育推進協議会」が感染症対策により中止したため、開催回数は 3 / 4 回ということで、B 評価としている。

#### 【夢の 5 家庭教育の教育力を高めるための支援の強化】

- ・指標 14 の「目標の成果を検証するアンケートの実施回数」は、成果指標年間 2 回に対して、各学校において、学校評価アンケートとして 1 学期と 2 学期に年間 2 回実施しており、A 評価としている。
- ・指標 15 の「保護者を対象にした研修会の開催回数」について、家庭教育支援チームの育成のために県主催の研修等に積極的に参加している。また、小学校仮入学の日に保護者を対象とした研修を 6 校で実施していることか

ら、成果指標 6 回に対して、7 回開催しているため、A 評価としている。

【夢の 6 放課後子ども教室の充実】

・指標 1 6 の「放課後子ども教室の開催回数」は、しらかべ学遊館や各学校等で開催する予定としていたが、コロナ禍により成果指標 2 4 回に対して、1 3 回の実施となったため、C 評価としている。

【志の 1 「確かな学力」の育成】

・指標 1 7 の「学力向上推進リーダーによる訪問指導」は、成果指標 1 3 校となっており、全ての学校で実施できたことから、A 評価としている。

【志の 2 「豊かな心」の育成】

・指標 1 8 の「道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開」は、成果指標 1 3 校となっており、全ての学校で実施できていることから、A 評価としている。

【志の 3 「健やかな心」の育成】

・指標 1 9 の「新体力テスト等のデータによる柔軟性」について、成果指標は、「全国平均を上回る」としており、成果は男子が 1 3 校中 4 校、女子が 1 3 校中 8 校で令和 3 年度の成果を上回ったものの、依然として状況が良くないため、C 評価としている。

・指標 2 0 の「食育のための巡回訪問の回数」は、成果指標が全 1 3 校での開催となっており、栄養教諭において、小中学校 1 3 校中 6 校に延べ 1 4 回実施した。直接、児童生徒からの素直な感想を得ることで、細かく配慮した献立の作成に反映させることができたと考えている。小中学校全 1 3 校中 6 校での実施となったことから、C 評価としている。

・今後は、動画や I C T を活用するなどして、より体感的な食育指導を行いたいと考えている。

【志の 4 キャリア教育の推進】

・指標 2 1 の「二分の一成人式や立志式の実施」について、成果指標は 1 3 校となっており、各学校において開催方法を工夫し実施することができたため、A 評価としている。

・指標 2 2 の「学校・地域連携カリキュラムの作成」について、成果指標は 1 3 校となっており、全ての学校で作成され、それを基に教育活動を展開することができたことから、A 評価としている。

【志の 5 特別支援教育の充実】

・指標 2 3 の「特別支援教育推進週間の実施回数」について、成果指標は、全ての学校で年間 2 回の実施としており、全ての学校で、1 学期と 2 学期に

実施したことから、A評価としている。

【志の6 生徒指導の充実】

・指標24の「柳井市いじめ問題研修会の実施回数」は、成果指標が年間1回の実施となっており、予定通り実施できたことから、A評価としている。

【志の7 幼児教育の充実】

・指標25の「保育・幼児教育体験の実施回数」について、成果指標は年間1回の実施となっており、各園の協力により予定通り実施することができたことから、A評価としている。

【志の8 教職員の資質向上】

・指標26の「克己堂の開催」は、成果指標13校に対して、カリキュラム等の都合により開催できなかった学校もあり10校の開催となっているが、A評価としている。

【4－（1）情報発信の充実】

・指標27の「ホームページの月当たりの更新頻度」は、成果指標1に対して、1.63となっており、A評価としている。

市役所全体で使っているホームページ作成（コンテンツ・マネジメントシステム）による表示方法等の制限はあるが、ページの見やすさ、分かりやすさには引き続き改善に努めていきたい。

・指標28の「指導主事の学校訪問による情報発信サポート」は、成果指標の月1回に対して、担当指導主事制度のもとで各学校に継続的に訪問し、情報収集と発信に努めたことから、A評価としている。

【4－（2）安全で快適な学びの環境づくり】

・指標29の体育館の天井やバスケットボードなどの「学校施設非構造部材（屋内運動場）の耐震化率」は、85.7%となった。今回、平郡東小屋内運動場の改修が終わり、残りの伊陸小屋内運動場と大畠中武道場の2ヶ所は、今後、順次取り組むこととしている。

・その他の施設環境の改善として、新庄小特別教室等への空調機設置や学習机の拡張器具の取付を実施した。

・指標30の「通学路の合同点検」は、国・県・市の道路管理者、警察、学校等による協議会を実施し、各学校からの改善要望箇所を共有して、改良工事や路面標示等の安全対策を行っている。

・令和4年度は、伊陸便の路線バス廃止により、該当児童の通行手段としてスクールタクシーの運行を開始した。

【4－（3）学校の適正規模・適正配置】

- ・この項目には、特に成果指標は設けていない。
- ・児童生徒数の減少により、一定規模における学習環境の維持が難しくなりつつある中で、保護者の考え方、地域のとらえ方等々地域それぞれの状況について、適宜情報を得ていきたいと考えている。
- ・廃校地の有効利活用については、引き続き推進に努めている。

#### 【4－（４）ＩＣＴ環境の整備・充実】

- ・この項目も、特に成果指標は設けていない。
- ・令和３年度から全児童生徒のタブレット活用を始めており、持ち帰り学習含め積極的に活用されている。先ほど、２６ページの食育の箇所、沖縄の小学校とのオンライン学習を紹介したが、その他にＪＡＸＡによる遠隔授業やデジタル教科書の導入等の実施など、ＩＣＴのより効果的な活用を努めていきたいと考えている。

#### 【4－（５）学校教材、図書の整備・充実】

- ・指標３１の「学校司書の配置」は、全校配置を成果指標としており、成果として７人の配置をすることができたが、配置人数だけを見れば成果指標を下回っているため、Ｃ評価としている。
- ・学校規模に応じた図書の冊数を計る図書標準達成率は、１００％以上が７校で、７０％以下の学校はなく、充足率は概ね向上していると捉えている。廃棄分との兼ね合いもあるため、今後も有効な選書配置となるよう努めていきたいと考えている。

#### 【令和４年度の重点事項における個別評価】

##### 《学校教育》

- ・０１番の「『学校・地域連携カリキュラム』を活用し、『社会に開かれた教育課程』の実現を図り、子どもたちの資質・能力を高める」では、子どもたちに生きる力を育むためには、各教科で学んだことが社会で生かされ、また、地域社会の中で各教科の本質を学ぶということが重要であることから、学校と地域との連携は不可欠であり引き続き学校・地域連携カリキュラムの積極的な活用とその検証・改善を図る必要があると考えている。
- ・０７番の「子どもたちに一人ひとりの学力を保障するために、データに基づいた学力向上を推進する」では、客観的なデータから成果と課題を分析し、授業改善や学力向上の取組に生かしていかなければならないと考えている。  
今年度は、中学校においては国語・数学は全国平均と同程度、英語は全国平均を下回り、小学校においては、国語・算数ともに全国平均を上回る結果となった。各校では、子どもたちの課題を分析し、授業改善にいかすとともに、朝学等で補充学習を行い、子どもたちの一人ひとりの学力を保障するための具体的な取組を進めている。
- ・０９番の「教職員一人ひとりの個性を生かした組織づくりや働きやすい環

境づくりを進め、地域や関係機関との連携を深めた中で、「チーム学校」としての機能強化を進める」では、各校で管理職が中心となり働きやすい環境づくりを進め、子どもたち、保護者、地域のために全教職員が一丸となって教育活動を進めている。教育委員会としても、引き続き各学校を支えていきたいと考えている。

#### 《社会教育》

- ・01番の「学校教育と両輪で進めるスクール・コミュニティに取り組む体制を構築します」では、各学校運営協議会や地域協育ネットの会合において、地域学校協働活動推進員（市スクール・コミュニティセンター）、学校教育課職員、社会教育主事が、オブザーバーとして参加し、情報の共有など連携を図っている。

- ・03番の「自然体験活動を促進し、しなやかでたくましい子どもを育てます」では、星の見える丘工房を活用した天体観測会を毎年企画している。令和4年度は、3回計画したが天候不順により実施は1回となった。

- ・04番の「公民館活動における学習講座を工夫し、交流や生きがいづくりを図ります」では、各公民館の教室・講座のほか、市教委主催で山口県立大学と連携し、サテライトカレッジを3回開催した。内容としては、歴史文学が2回、SDGs関係が1回となっている。

- ・05番の「家庭教育支援チームを強化し、家庭教育に不安を抱える保護者等への相談活動を充実します」では、家庭児童相談室と連携し、相談カード、チラシの設置・配布を行っている。また、就学児検診時に家庭教育支援チームが保護者の相談に応じている

- ・06番の「学校図書館司書やボランティア団体との連携を図ります」では、学校司書、ボランティア活動団体、あるいは只今募集している図書館サポーター等含めて連携しながら充実を図りたいと考えている。

- ・07番の「地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブサイトの充実を図ります」では、新図書館の建設に向けて機器の充実を図っており、こういった機器を活用しながらデジタル化を推進していきたいと考えている。

#### 《スポーツ・文化》

- ・01番の「スポーツ少年団の啓発活動を工夫し、活性化を図ります」では、スポーツ少年団団員募集冊子を全児童と市内体育施設へ配布し、各スポーツ少年団のPRを行っている。

- ・02番の「バタフライアリーナ（市体育館）をはじめスポーツ施設の利便性向上に向けた整備を図ります」では、修繕が必要な設備等について緊急の対応を実施した。

- ・03番の「音響設備の優れたサンビームやないの特性を活かし、利用促進に努めます」では、自主文化事業の充実及び予算の確保に取り組んでいきたいと考えている。

・04番の「しらかべ学遊館や月性展示館等の展示施設を活用し、郷土の文化財や人物の情報を発信します」では、しらかべ学遊館において茶臼山古墳の発見者の一人である原庄一さんの資料展示、また、有実遺跡と松成西遺跡の出土品の展示を行った。

・05番の「地域の歴史や伝統の研究を深め、郷土愛を深めます」では、先程の2遺跡の発掘調査報告書を刊行し、市内小中学校、各公民館、図書館に配布し、郷土の歴史について周知を図った。

#### 《環境整備》

・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のピークは過ぎつつあり、国のガイドラインに基づいて、段階的にゆるやかな方向に取り組んできた。

学校施設の整備では、今後、空調設備やトイレの洋式化に一定の目途ができた段階で、照明のLED化やサッシの断熱化等の時代に対応する環境改善に努めていきたいと考えている。また、ハード面でのICTの初期整備は、令和3年度に完了しており、次の段階として、より一層効果的に活用されるようにサポート体制も含めて充実を図りたいと考えている。

以上です。

主な意見及び質疑応答は以下のとおり

西原委員：人権教育の推進（愛の1）については、終わりのない教育という認識で継続的に推進していただきたい。

生涯学習の推進（愛の2）のデジタルアーカイブの関係ですが、顕彰会にも月性資料のバックデータがたくさんあるので、一緒に検討しながらアップデートしていけたらよいと思う。

青少年の健全育成（愛の3）の今後の課題と改善案で、SNS対策も併せて実施する必要があると記載されているが、ここは重要な鍵になると思う。これからの補導スタイルについては、ソフト面でのセキュリティチェックを強化していくことが急務である。その中でも最近クローズアップされている生成AIの乱用（特にフェイク関係）も含めて注視していく必要がある。

スポーツ・レクリエーション活動の振興（愛の5）で、「感染症対策により、行事が一部開催できなかった」と記載されているが、このような時には様々な課題や問題点を検討する機会として捉え、「計画通り活動はできなかったけれども、何々の協議・活動・工夫等ができた」ということを入れていただくと、より評価できると思う。

厚坊委員：先日、柳井中学校の運動会を見ると学校の部活に所属しないで地域のスポーツ団体に所属している生徒がたくさんいることに驚いた。部活動の地域移行については、スポーツレクリエーション活動の振興に関係すると思うが、いずれ進捗状況等の評価を報告書に挙げ

る必要が出てくるので、柳井市としての方向性を考えていく必要があると思う。

大岡課長：部活動の地域移行については、昨年度から協議会を起ち上げて活動しているが、大きくは今年から動き始めている。現在は外部指導者の登録を行っており、来年度からは責任ある立場で指導していただくための部活動指導員の雇用を考えている。

西原委員：部活動の地域移行は、文化部の関係とスポーツの関係に分類されると思う。それぞれ現在の進捗状況についてはどうなっているのか。

大岡説明：外部指導者については、これまでボランティア的な立場でお願いしていたが、市で登録して謝金を支払うように変更している。

また、先日、各中学校で行われた新一年生の仮入学において、部活動改革総括コーディネーターから保護者に対して柳井市の方針等を説明させていただいた。

瀬山委員：サンビームやないで開催される買取公演の内容は、どのようにして決められているのか。

藤村部次長：基本的には集客を考えなければいけないと思う。また、対象を幼児や子ども、大人向け等に絞るなど市民の皆様に受け入れられるものを選定している。

横山委員：指標6の「市主催大会への参加者数」については、感染症対策のため一部開催できなかったが、駅伝競走大会、ロードレース大会、健康ハイキング大会は規模縮小して実施されたので、評価はCにならないのか。

大岡説明：いろいろなご意見をいただいているが、数値を基に評価を出しているため、評価はDとさせていただいた。

室田課長：補足ですが、2ページに記載している評価基準（A B C D）のとおりに、指標6の成果指標に「5 6 0 0人」を掲げているが、令和4年度実績は「6 6 6人」であり、数値割合からすると0～34%に該当するため、D評価としている。

西原委員：コミュニティだより「こやらい」の入手方法は、どのようにしたらよいか。

大岡課長：一般向けには配布していないが、各公民館に配布しているので閲覧はできる。また、HPにも掲載している。

西原委員：マイランチデーは、竹下和男氏が提唱する趣旨を十分理解して、人間としての根源や命の有難さを感じることができるように取り組んでいただきたい。

二分の一成人式や立志式は、各学校でそれぞれ実施しているのか。

河井課長：各学校で工夫して実施している。

西原委員：二分の一成人式は小学4年生時（10歳）に実施しているが、人生において最も大切な区切りは年齢が2桁になる10歳だと言われている。立志式も国や県が推奨しているので自覚や意識付けが重

要だと思う。学校としてもイベントの実施は大変だと思うが、特別なイベントにする必要はないので、人生の1つの区切りとして取り組んでいただきたい。

いじめ問題は、根絶は難しいので根気強く取り組んでいく必要がある。柳井市では、いじめ問題研修会をずっと開催しているが、シンキングエラー（共感性のなさに基づく間違った考えで、いじめの加害者はいじめを正当化し、自分がいじめをしているという認識をもつことができない）やアンバランスパワー（力の不均衡で、被害者は加害者にやり返すことができない）を十分に理解して、充実した研修会にしていきたい。

厚坊委員：令和5年度になって様々な行事やイベントがコロナ禍以前に戻りつつあると思う。新たにやっという機運もあるが、例えば、中止や平日開催だったコロナ禍の運動会が、令和5年度は休日半日開催になっている。学校としては以前の形に戻っているけれども、楽な方が良いというような雰囲気になってしまっは何のための行事なのか分からなくなる。惰性で行事をやっているとすれば子どもたちの資質・能力が育っていかない。

学校にとって行事は大きな活力にもなり、大変な負担にもなるので、以前のように行事を戻していくのか、もう一度見直して抜本的に変えていくのか、教職員の働き方改革を踏まえて考えていく必要がある。来年度の評価に向けて、新しい学校づくりという視点で考えていけたらいいと思う。

西原委員：通学路の合同点検は、何回開催しているのか。

室田課長：概ね年1回開催している。

西原委員：点検結果は、フィードバックされているのか。

室田課長：最終的に市ホームページで危険箇所や対応状況を掲載している。

厚坊委員：学校の普通教室棟におけるトイレの洋式化は、かなり進んでいるけれども単に洋式化しただけのように思える。家庭の洋式トイレと異なりウオシュレットがなく、冬場の洋式トイレは冷たくて座るのも大変だと思うが、どういう状況か。

室田課長：従前から同様のご意見をいただいているが、まずは早急に和式から洋式化に取り組むという段階にある。その次の段階で、ウオシュレットや暖房便座など、ある程度時代に合わせて検討していきたいと考えている。

また、電気配線が便器まで繋がっていないので、配線工事を追加すると工期や費用がかなり増えることになる。まずは便器だけの洋式化ということでご理解いただきたい。

横山委員：児童生徒は持ち帰り学習等でタブレットを利用しているが、3月に卒業する児童生徒のタブレットは、新年度に入学する1年生に貸与することになるのか。

室田課長：動作確認等を行った上で、新１年生に貸与する。

厚坊委員：学校間や教師間でタブレットの活用状況に差が出ないよう市のプロジェクトチームの中で、先生方が効果的な活用方法をしっかり話し合って情報を共有していただきたい。

河井課長：タブレット学習については、柳井市ＩＣＴ活用推進プロジェクトチームやＩＣＴ支援員の技術的な支援等により、学校間格差の解消に努めていきたいと考えている。

西原委員：時々授業を参観するので、先生によっては若干苦手意識を感じることもある。特にベテラン教員のＩＣＴに対する抵抗感に関しては、どういう状況か。

河井課長：授業の中でなかなか使いづらいという声もありますが、校内研修の充実を図って教師間格差が拡大しないように努めていきたい。

西原委員：小中学校にタブレットを導入して３年経過している。今後の更新についてはどのように考えているか。

室田課長：現状では故障等はあまり多くないが、令和８年から令和９年頃にタブレットの更新を予定している。

この他に質疑等はなく、各委員とも異議なしということで、原案どおり承認された。

#### （４）協議会

教育長から、暫時、協議会とする宣言があった。

（午後３時１５分 協議会）

（午後３時２２分 再開）

#### （５）閉会

教育長から、協議会を閉じ、教育委員会会議の閉会の宣言があった。

（午後３時２２分 閉会）

上記会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

教 育 長                  西 元 良 治

署名委員                西 原 光 治

署名委員                瀬 山 真紀子

調 整 者                室 田 和 範